

[企画展]

ラ ー ゲ リ

言葉は
海を越えて

収容所と 日本を結んだ 葉書

I 期

異国の丘にて
[1946-1950]



2022 2023
10/18(火) — 1/9(月・祝)

開館時間／ 9時30分～17時30分(入館は17時まで)

休館日／毎週月曜日(ただし1月9日は開館) および12月28日(水)～1月4日(水)

会場／平和祈念展示資料館 企画展示コーナー

※会期中に一部資料の展示替えを行います。

平和祈念展示資料館(総務省委託)

入館 無料

東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階 Tel: 03-5323-8709 <https://www.heiwakinen.go.jp>



[企画展]

ラーゲリ

言葉は
海を越えて

収容所と 日本を結んだ 葉書

I 期

異国の丘にて
[1946-1950]



斎藤邦雄「シベリア強制抑留いろはかるた」より

斎藤邦雄「内地からの手紙」



斎藤邦雄「紙芝居「シベリア抑留の話」より



1945年8月の終戦後、満州(現・中国東北部)・朝鮮北部・南樺太(現・サハリン島南部)・千島にいた日本の軍人・軍属を始めとする約60万の人びとは、ソ連軍によりソ連(現・ロシア)やモンゴルへ連行されました。そして収容所(ラーゲリ)に入れられ、強制労働に従事させられました。彼らは戦後強制抑留者(シベリア抑留者)と呼ばれます。

抑留者と家族が何年間も生き別れとなる中、彼らの心をつなぎ、支えとなったのが、国際赤十字・赤新月社を経由してやり取りされた往復葉書です。この葉書はソ連のハバロフスクで印刷された後、それぞれの収容所で抑留者に支給されました。ただ、支給される葉書の枚数はごく僅かであった上に、ソ連の厳しい検閲のため、葉書には収容所の場所や抑留生活の厳しさ、死んだ戦友の話などを書くことは許されませんでした。また、抑留者が葉書を出しても、日本から返事が届くまでには数か月もかかりました。それでもこの葉書は、抑留者と家族がお互いの無事を確認し合う唯一の手段だったのです。

本企画展では、抑留者と家族を結んだ葉書と関連資料を、I期とII期に分けて展示します。I期では、1950年4月までに帰還できた大多数の抑留者が、1946年10月から1950年頃まで家族とやり取りした葉書を紹介します。II期では、1950年4月以降もソ連に残されていた長期抑留者の葉書を紹介します。是非あわせてご覧ください。

ソ連領の
ウクライナから
届いた葉書



※新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、状況により臨時休館や開催期間変更となる場合があります。ご来館の前にホームページ等での確認をお願いいたします。

平和祈念展示資料館(総務省委託)

▶都営大江戸線(都庁前)駅 A6出口より徒歩約1分 ▶東京メトロ丸ノ内線(西新宿)駅より徒歩約5分
▶JR 線、小田急線、京王線(新宿)駅西口より徒歩約10分

